

管理事業名	公民館事業				総合計画の体系	第4章 第2節	個性がひかる学び学びと文化創造のまちづくり 生涯にわたり楽しく学べるまちづくり ほか			
主な歳出 予算科目	一般会計	(款)	10	教育費	(項)	5	社会教育総務費	(目)	3	公民館費
部局名	地域教育部	予算執行所属		まなびの支援課						
予算大事業名 施設管理事業 公民館運営事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名 (款)教育費(項)社会教育総務費(目)公民館改修費 地区公民館改修事業									
事業の目的と概要										
市民に地区公民館(29館及び1分館)を身近な生涯学習の場として安全・快適に利用してもらえるよう施設の維持管理を行います。 市民の自主的な学習・文化活動の支援を行うとともに、高齢化問題や防災等の現代的課題講座及び地域住民の学習ニーズに対応した主催講座を実施し、市民に学習機会を提供します。 地域文化の振興と市民の生涯学習に対する意欲の高揚、地域住民の親睦を図るため、29地区において地区公民館文化祭実行委員会が開催する地区公民館文化祭事業について補助を行います。 老朽化した公民館について、年次的に改修を実施し、安心・安全でバリアフリー対策を考慮したより良い施設づくりを推進します。										

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	成果指標の定義
施設利用者数 (主催講座除く)	人	333,553	370,776	384,307	地区公民館の貸出施設の利用者数
主催講座参加者数	人	50,622	49,493	53,064	地区公民館主催講座事業の参加者数
主催講座開催回数	回	1,868	1,853	1,849	地区公民館主催講座事業の開催回数
文化祭来館者数	人	40,361	40,403	42,139	地区公民館文化祭事業来館者数
成果	平成26年度から、高齢化問題や防災等の現代的課題講座に加え、専門的な知識を持った市職員を活用した講座の企画に力を入れるなど、公民館における主催講座内容の充実に向けて、平成28年度は参加者数の増加に繋がりました。施設利用者についても昨年に比べ増加し多くの方に公民館を利用いただきました。 地区公民館の改修事業では、南吹田地区公民館の移転建替え工事に伴う土木工事及び山手地区公民館の移転建替えのための実施設計を進めると共に、片山地区公民館の大規模改修工事を完成しました。また、東佐井寺・千里新田・山五地区公民館の屋上防水等工事、佐井寺・北山田地区公民館の外壁補修工事を実施し、老朽化に対応した維持補修工事を実施しました。これらの改修等工事により、安心安全で高齢者や障がい者にやさしい生涯学習施設の整備・充実に取り組みました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成26年度	平成27年度 A	平成28年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
国庫支出金(経常費用充当)	353	525	879	354
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	2,984	2,016	3,712	1,696
経常収入 小計(a)	3,337	2,541	4,591	2,050
給与関係費	75,176	80,141	81,409	1,268
物件費	138,035	133,934	166,200	32,266
維持補修費	12,118	19,055	88,837	69,783
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	18,206	18,198	28,834	10,636
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	38,983	43,114	49,807	6,693
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	2,487	3,038	2,874	△164
退職手当引当金繰入額	1,850	8,064	3,882	△4,183
支払利息	8,538	8,443	7,998	△445
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	295,392	313,987	429,841	115,854
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△292,055	△311,446	△425,250	△113,804
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	698	3,474	-	△3,474
特別収入 小計(d)	698	3,474	-	△3,474
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	823	-	0	0
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	823	-	0	0
特別収支差額(d)-(e)=(f)	△125	3,474	△0	△3,474
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△292,180	△307,972	△425,250	△117,278
一般財源充当額	339,911	486,604	494,329	7,725
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	47,731	178,631	69,079	△109,553

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
その他(経常収入)	電話加入権過年度遡及登録に伴う過年度損益修正益 1,661千円ほか
物件費	地区公民館管理委託業務料57,981千円 維持管理等業務委託料 40,081千円 光熱水費等 22,887千円 主に、旧千一公民館解体工事費27,911千円の増及びAED機器、パソコン買替え等による備品購入費5,859千円の増
維持補修費	地区公民館の改修等工事及び維持補修工事にかかる工事請負費68,455千円の増及び修繕費の1,328千円の増
負担金・補助金・交付金等	主に、南吹田地区公民館移転に伴う電気通信設備引上管路移設工事負担金等による10,660千円の増

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

区分	平成26年度	平成27年度 A	平成28年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	3,337	2,541	2,929	389
行政サービス活動支出	257,440	266,270	379,699	113,429
行政サービス活動収支差額	△254,102	△263,729	△376,770	△113,040
投資活動収入	698	3,474	-	△3,474
投資活動支出	180,231	199,300	80,947	△118,353
投資活動収支差額	△179,533	△195,826	△80,947	114,879
財務活動収入	120,700	-	-	-
財務活動支出	26,975	27,048	36,612	9,564
財務活動収支差額	93,725	△27,048	△36,612	△9,564
収支差額 合計	△339,911	△486,604	△494,329	△7,725
一般財源充当額	339,911	486,604	494,329	7,725
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	投資活動支出:片山地区公民館大規模改修工事及び大井池公園便所新築工事ほか
----------	--------------------------------------

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	度との増減理由)
利用者一人当たりコスト	平成26年度	384,175 人	769 円	地区公民館利用者一人あたり896円のコストがかかっています。
	平成27年度	420,269 人	747 円	地区公民館利用者については平成28年度から従来の地区公民館利用者(貸館利用者及び
	平成28年度	479,510 人	896 円	主催講座参加者)に文化祭来館者を加えたものに変更をしています。

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成27年度末	平成28年度末	差額 B-A	勘定科目	平成27年度末	平成28年度末	差額 B-A
	A	B			A	B	
現金預金	-	-	-	流動負債	39,649	48,165	8,515
未収金	-	-	-	地方債	15,706	24,385	8,680
財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	3,038	2,874	△164
徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	3,221,739	3,240,843	19,104	その他流動負債	20,906	20,906	-
土地	2,004,435	2,004,435	-	固定負債	623,846	579,053	△44,793
建物・工作物	1,206,737	1,220,962	14,225	地方債	274,760	250,375	△24,385
リース資産	-	-	-	長期借入金	-	-	-
建設仮勘定	10,567	15,446	4,879	退職手当引当金	35,494	35,993	499
無形固定資産	694	2,304	1,610	リース債務	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	その他固定負債	313,592	292,686	△20,906
土地	-	-	-	負債の部合計	663,495	627,218	△36,277
建物・工作物	-	-	-	純資産	2,558,938	2,615,929	56,991
建設仮勘定	-	-	-	重要物品	0	0	0
重要物品	0	0	0	図書館資料	-	-	-
図書館資料	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	出資金	-	-	-
出資金	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	基金	-	-	-
基金	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	その他債権	-	-	-
その他債権	-	-	-	資産の部合計	3,222,433	3,243,147	20,714
資産の部合計	3,222,433	3,243,147	20,714	負債及び純資産の部合計	3,222,433	3,243,147	20,714

Ⅲ 財務構造分析

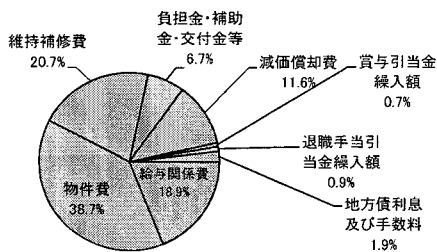
▽人にかかるコストの内訳

事業従事人数	常勤・再任用	非常勤	臨時雇用員	審議会委員等	合計(千円)
	月平均	月平均	年間従事延日数	実人数	
事業従事人数	5.15 人	29 人	221 日	462 人	88,164
給与関係費等	46,532 千円	20,497 千円	1,944 千円	19,191 千円	
内、時間外勤務手当	2,665 千円				

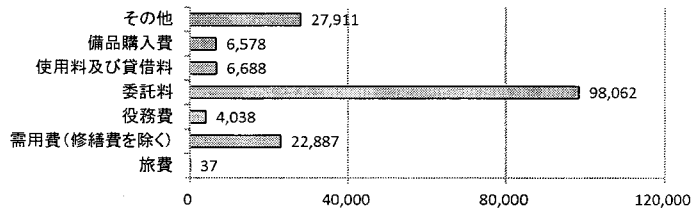
貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	片山地区公民館大規模改修工事、千里新田地区公民館改修工事等の完了による63,981千円の増、減価償却による49,756千円の減
建設仮勘定	山手地区公民館及び山手地区高齢者いこいの間新築工事実施設計委託料による増
無形固定資産	電話加入権登録による1,661千円の増、水道施設利用権、減価償却による51千円の減

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹一地区公民館ほか29施設
取得年月日	昭和36年12月13日(吹一地区公民館ほか)
建物・工作物の取得価額	2,298,532 千円
建物・工作物の減価償却累計額	1,077,569 千円
利用料金収入	- 千円

▽分析指標

分析指標	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	差 B-A
			A	B	
施設維持補修費比率		0.6	0.8	3.9	3.1
施設老朽化比率		48.6	46.2	46.9	0.7
受益者負担比率		-	-	-	-
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		73.2	98.8	99.4	0.6
経常費用対公共資産比率		14.4	14.0	18.7	4.7

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は53.9%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

経常費用の主なものにつきましては、物件費166,200千円(38.7%)、維持補修費88,837千円(20.7%)、給与関係費81,409千円(18.9%)となっています。物件費の主な内訳としては、地区公民館管理業務等委託料が約59%、旧千一地区公民館の解体工事費用等のその他が約17%を占めています。平成28年度は、主に南吹田地区公民館移転に伴う土木工事や東佐井寺地区公民館他4館の維持補修工事を実施したため維持補修費が増加したこともあり、施設の維持補修費比率が3.1ポイント上回りました。平成28年度地区公民館全体の老朽化比率は、平成27年度に比べ0.7ポイント進んだものの、片山地区公民館の大規模改修工事等の資産価値の向上を伴う工事を実施したため、老朽化の進行が抑制されていますが、個々の公民館の老朽化比率の平均は62.8%(平成20年度以降に建替えを行った4地区公民館を除いた個々の老朽化比率の平均は71.1%)となり、市保有施設全体の老朽化比率53.9%と比較すると、公民館は老朽化が進んでいると言えます。平成28年度は旧千一地区公民館の解体工事に併せて大井池公園便所新築工事を原因者負担で行ったため、その工事がキャッシュ・フロー収支差額集計表の投資活動支出に表れていますが、資産(建物)については平成29年3月に所管替えを行ったため貸借対照表には計上されていません。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

事業コストの38.7%を委託料や光熱水費等で構成される物件費が占めていますが、地区公民館の窓口受付業務、清掃業務や各種保守点検業務等、地区公民館を安全・良好な状態で維持し市民へ提供するためには、必要な経費であるとと考えています。平成28年度は主に南吹田地区公民館の移転に伴う土木工事や東佐井寺地区公民館他4館の老朽化に対応した維持補修工事の実施及び片山地区公民館の大規模改修工事を行い、施設の長寿命化に努めているところですが、他公民館については、依然老朽化が進行しており、経年劣化が原因による維持補修(雨漏り修繕・外壁補修)等に関するコストが今後増加することが予測されます。厳しい財政状況が続くことが予測されることから、その財源を確保することが非常に困難となっていますが、維持補修等にかかる経費をできるだけ平準化するために維持補修計画を立て、計画的に予算確保を行い、適切な時期に維持補修等を実施していくことが必要と考えています。事業コストの6.7%を負担金・補助・交付金が占め、その内、36%を主催講座講師謝礼金が占めています。引き続き専門的な知識を持った市職員を活用して、気軽に行うことのできるストレッチ体操や図書、地域の歴史といった講座を展開し、限りある講師謝礼金を有効に活用していきたいと考えています。社会教育施設としての公民館の役割を果たすため、多様化する現代的な課題や社会的課題をテーマにした講座に取り組むと共に、講座を企画する企画運営委員への研修や情報提供を充実させ、市民にとってより魅力的な講座が提供できるようサポートしていきたいと考えています。